

# 大阪に入荷しているのに何故大阪のマーケットに出回らないのか。

大阪府岸和田市の木材港は小生の会社から車で5分以内に行ける絶好の場所にあるホームグラウンドです。しかし今回絶好の場所に入荷した入手が困難な樹種をもう少しで取り逃がす所でした。

と言うのは、現在の南洋材マーケットは全ての樹種において現地の天候不順・現地の経済発展による人手不足・急激な為替変動等々の悪条件が重なり超品不足になっています。

品不足になっている裏づけは工務店が以前最も多く使用していました使い易い南洋材の集成材（ペルポック・アガチス）が中国産の赤松の集成材



に替っていることと解かると思います。そして南洋材を扱う川上サイドの商社を含め問屋・材木屋と扱う業者は日本全国にいますが、原木を扱う業者が少なすぎて情報が無く、御客様から引き合いの注文があった時、仕入先に問い合わせたら、在庫は有りません。と言う答えを聞いてはじめて実感する程度だと思えます。

確かに東日本大震災以降、資材の大幅な値上がり・人手不足等の外部環境の劇的変化で無垢材より建材と言う流れは2020年の東京オリンピック招致が決定されても変化は少ないと思えます。その中で我々中小零細業者は、一つ一つの物件の金額が少なくても、大手が手がけると高く付くりリフォーム事業に経営

資源を移さざるを得ないと考えるのは考えすぎでしょうか。小生は真剣に悩んでいます。

PAGE NO. 1		KISHIWADA OFFICE		ARRIVED ON 2013. 9. 14				
NAME MANGIUM V-158		KIND OF LOGS LOPHOPETALUM		MARKS ( 2 )				
VESSEL ( KM )		DIA		REMARKS ( DOBA )				
LENGTH		DIA		REMARKS ( DOBA )				
LOT No. 2		DIA		REMARKS ( DOBA )				
GRADE	KIND	No	TOP DIA	BUT DIA	AVE DIA	LENG	VOLUME	REMARKS
		1	42	48	45	10.2	1.522	
		2	40	52	46	10.8	1.795	
		5	50	57	53	12.4	2.736	
		6	44	53	49	10.4	1.882	
		7	54	58	56	11.6	2.857	
		10	38	46	42	12.2	1.690	
		11	48	58	53	11.4	2.515	
		15	42	48	45	10.8	1.718	
		29	43	45	44	5.8	0.882	
		30	43	51	47	9.2	1.596	
		31	51	73	67	8.6	3.032	
		32	58	65	61	6.6	1.929	
		38	42	50	46	11.6	1.928	
		39	55	62	58	8.0	2.114	
		42	50	57	53	11.4	2.515	
		43	47	56	51	14.8	3.023	
		44	40	51	45	15.4	2.449	
		45	45	58	51	14.0	2.860	
		51	38	45	41	11.2	1.479	
		52	51	57	54	11.6	2.657	12 5.6 0.063
		53	44	51	47	12.8	2.221	
		73	38	47	42	16.2	2.244	
		74	98	44	41	14.0	1.848	
		79	40	53	46	14.4	2.393	
		80	35	47	41	13.6	1.796	
		81	44	57	50	17.0	3.338	
		82	39	48	43	13.0	1.888	
		84	37	48	42	18.8	2.605	
		85	43	55	49	16.4	3.093	
		93	47	60	53	16.4	3.618	
		99	43	53	48	14.2	2.570	
		100	42	52	47	13.4	2.325	
		109	52	68	60	17.2	4.863	
		111	47	54	50	13.4	2.631	
		282	49	59	54	17.6	4.031	
		283	40	64	52	21.0	4.460	
		285	41	62	51	21.4	4.372	
		292	36	49	42	22.2	3.075	
PAGE TOTAL		38	96.651	0.063	96.588	AVE 49.05cm	13.45m	
LOT TOTAL		38	96.651	0.063	96.588	AVE 49.05cm	13.45m	

上記の写真はニューギニア産のペルポック原木です。大阪で小生が目にするのは多分30年ぶりかも知れません。写真で見る限り美しく見えませんが、この樹種は大変リフォームに向いている樹種の一つです。具体的用途はドアの横に張る大手張りと言う部材に凄くマッチしています。この木の目の感じ専門用語で（目合い）はナラ目合い（ナラ材に非常に似た品格が有ります）の樹種で単価はナラ材の半値以下の商品です。そしてナラ材より凄く使い易い性質を持っています。

小生はこのペルポック材だけで服部商店の未来が開けるとは全く考えていませんが、我々関西の材木屋が出来る仕事は何で有るか真剣に考えると扱う数量は僅かでも折角ご縁が有って大阪に卸してくれたニューギニア産の原木を何もせずに静岡県と広島県の業者に全て

流れると言う事態は絶対に避けたいと考えました。そして特選原木3本だけ買い付けました。

大阪の材木屋の魅力が無くなれば益々大阪と言う地域は関東の下請けになりさがるのは考えすぎでしょうか。大阪の意地を見せるのも小生の責任だと考えています。

## ペルポックの特徴

前頁の記事でペルポック原木3本を買い付けましたとありますが、具体的な明細は以下です。

木番号	末口直径	元口直径	アベレージ	材積
NO7	54 センチ	58 センチ	56 センチ	2.857M3
NO30	43 センチ	51 センチ	47 センチ	1.596M3
NO31	61 センチ	73 センチ	67 センチ	3.032M3
				合計 7.485M3



左の写真はペルポック原木をホークリフトで卸すところですが、凄く細長いのが解かると思います。これがペルポック材の特徴です。この材はマングローブの少し奥のスワンプ（沼地）に多く生育しています。ラワン材が活況だった頃は見向きもされなかった樹種です。現在マレーシア・インドネシアのペルポック材の天然林はほぼ切りつくされ、残っているリンクは完全に政府がコントロールして

違法伐採は全面的に禁止され生産数量は激減しています。しかし他方ニューギニア産のペルポック原木は森林に潤沢に蓄積されています。そして厳格なライセンスを持っている業者以外は現在伐採出来ない為に循環可能な森林経営がされていると聞いています。

ペルポック材の最大の特徴は色です。ピンク色をしていて年輪が無い南洋材の仲間でも目合いが有り上品な仕上がりを醸し出します。小生も宿泊した事の有る TPP の会合が行われたマレーシア・コタキナバルのシャングリラ・タンジュアルリゾートアンドスパでも多く使われています。マレーシア・インドネシアではチークを除く高級品種に概等します。

このピンク色の木の最大の問題は色が白っぽい為に変色が非常に入り易い性質を持っているのです。そして育っている場所が沼地である為、木自信が水分を凄く多く含んで成長しているのです。と言う事は、この樹種を上手く活用する事は、水分との闘いなのです。小生は今回現地で行なわれている同じ乾燥方法を施しました。それが立て乾燥技術です。非常に手間はかかりますが、静岡県・広島県の同業他社に負けられません。



左の写真はペルポック材を立てて 20 分くらいした状態です。本当に水分を多く含んでいるのが解かると思います。

ペルポック材生産工程（今後の予定）

1 週間立て乾燥→材を横にして 3 日間人工乾燥を施す。（表面を乾かす。）→二週間風通しの良い所で天然乾燥を施す。→1 週間じっくり人工乾燥を施す。→耳を断ち長さをカットして最終商品になります。



## 嬉しいメールと小生の思い

服部新聞について大変嬉しい2通のメールを頂きましたことに感謝申し上げます。

いつも楽しく拝見させて頂いています。

〇〇木材の会長とご一緒させて頂いた時の、社長のぶっきらぼうな対応に驚き同時に、木への愛情ある言葉が非常に心に残りました。

以後、送られてくる記事の内容はとも興味あるものであったり、マニアックであったりして欠かさず拝見しています。

来年には、100号を迎えられるとのこと心からお祝い申し上げます。

さて誌上にて、企画をお考えとのこと拝見しました。

私事ではありますが、貴社で購入して作成したナラのテーブルを谷町九丁目にできたラウンジに納入しましたところ多くのお客様が、テーブルに触れておほめの言葉を頂いたというオーナーの御言葉を頂きました。また、そうした方々から高額な値段を推測されたとのことでした。

こうしたことから、市場に良質の木製品のニーズはたくさんありそれは、決して安ければよいというものではありません。

われわれが、どうすれば魅力ある製品を適正な価格でお客様に届けられるかという事だと考えます。

具体的な提案では、ありませんが一般の方々に木の魅力と現在の市場価格を広くアピールできる企画があれば、新しい市場の開拓のチャンスになるのではと考えました。

株式会社 〇〇総合設計

〇〇英仁

いつもお世話になります。

やはりメールでのほうが読み続けやすいと思います。整理も簡単。

ひとつだけ質問です。自宅は枠縁床すべて無垢材で作っています。シート貼りの味のないことは分かっているからです。木材で節があることは、見た目の体裁以上に 特に造作材などでも 反りねじれ等が発生しやすいとかがえていたほうがいいのでしょうか？

シート貼り材より、節ありでも(死に節でも)無垢材を提案できればいいと思うのですが・・・

〇〇工務店

〇〇仁志

嬉しいメールのお返事に小生の思い『天然素材の無垢材の価格が高いのかそれとも安いのかと言うお話について思いを書きます。』を下記に書きます。

- 1、 服部商店の経営者であるので従業員の為の最低の報酬が必要です。その正当な部分は価格に織り込んでいます。
- 2、 絶えず同業ライバルを想定しています。あくまで価格競争ではなく品質競争です。しかし価格と品質は絶えずリンクしているので、ライバルの動きは何時も注目しています。価格と品質のバランスは凄くシビアに考えています。
- 3、 材木屋は木材のあらゆる失敗を如何に多くしているかで、本質は見極められます。成功事例は材木屋を育てません。それ位天然素材の無垢材は難しい物なのです。それに対応する方法は1つしかないのです。同じ失敗を二度としない事に尽きるのです。毎日の反省・1ヶ月の反省・1年の反省・5年の反省・10年の反省と言うように仕事にまい進する以外方法は無いと思っています。従って仕入れの損をマージンに織り込むと仕入れが甘くなるので織り込んでいません。
- 4、 服部商店の経営方針の言葉に『お客様の先の御客様』と言うのが有ります。最初のメールに唄われている『貴社で購入して作成したナラのテーブルを谷町九丁目にできたラウンジに納入しましたところ多くのお客様が、テーブルに触れておほめの言葉を頂いたというオーナーの御言葉を頂きました。』から見ると小生の価格の判断は間違っていないかと思います。
- 5、 造作材の節の問題ですがこれは機械(モルダー)の問題です。昔全て手仕事で造作材を作っていた時と違って機械で行います。大きな節は節以外の部分にキズを生じます。それが節を使えない理由です。

**小生も人生設計・仕事等凄く悩んでいます。是非皆様に貴重なご意見を賜りたく思っています。これからも真摯に取り組んで行きたいと思っています。是非色んなご意見を頂ける事を御願います。**

## 広島県廿日市出張

先月 8 月 26 日の午後 2 時 30 分に大阪府岸和田市の会社を出発し 5 時間かけて広島県廿日市市に出かけて来ました。出張の目的は、南洋材原木（アガチス原木）の仕入れです。

今年の初め迄は愛知県蒲郡市・愛知県飛島村の 2 箇所が仕入先の現場でしたが、2 箇所の現場だけでは材が集まらなくなっているのです。

ところで広島県廿日市市と聞けば 2 つのキーワードに気が付くと思います。一つ目は厳島神社です。



出張目的が仕入れなので観光は全く有りませんが宿泊先は厳島神社の海の前でした。フェリー乗り場の前でも有りました。車の運転・大阪の猛暑を癒せる（朝・晩は涼しかった）ホテルに宿泊しました。

右の写真は廿日市市の港から市内を見た所です。二つ目のキーワードはウッドワン（旧住建産業）の存在です。写真には写っていませんが同会社の本社所在地です。

宿泊先から港に行く道中ウッドワンの工場周辺を通りましたが、細部は解かりませんでしたが、企業城下町的な雰囲気は肌で感じてきました。とにかく大きな建材メーカーだと感じました。しかしウッドワンの取引内容の中で原木を介して商いは殆どしていないと言うお話も現場で聞いてきました。



大阪府岸和田市にも朝日ウッドテックが有りますので同じ様なロケーションですが、廿日市と岸和田では大きな違いが有ります。それは輸入されている主力原木の樹種の違いです。大阪はアラスカ産針葉樹等の北米産針葉樹がメインです。廿日市は南洋材が今でも主力樹種です。この違いは建材メーカーの存在ではなく、重工業の存在が 2 つの地域の違いを表しています。

本州瀬戸内の広島県から北九州の間は大手鉄鋼メーカーと大手造船メーカーが日本の物作り産業で頑張っています。その産業には木製ダンネージ材と木製パレット材が必要なのです。

大手メーカーと言っても中国・韓国の鉄鋼・造船メーカーがどんどん追い上げていますから熾烈な競争があるのです。ダンネージ材・パレット材を供給する材木屋も大手メーカーと同じ様に中国・韓国と戦っているのです。

日本の下請け企業がグローバル競争に勝つ為に取り組んだのが南洋材の主力樹種（ラワン材）以外の活用でした。雑木と呼ばれ、小生もあまり聞いた事が少ない樹種の活用でした。当初は凄く上手いこと行き携わる方々全員に貢献しましたが、現在は日本以外の国も積極的に雑木を購入するので価格が高騰していると聞いています。それでも民間の中小零細な木材業界は鉄鋼・造船メーカーを支え続けていますと、広島県の仕入先の部長に聞いてきました。

**大阪の木材業界の地盤低下は努力不足も有るが、木材を大量に消費する他業種のメーカーが少ない事も有ると思います。その対策上日本全国に出かけて仕入れをする事位頑張るのは当然の仕事だとも感じました。**